

JAK阻害薬について

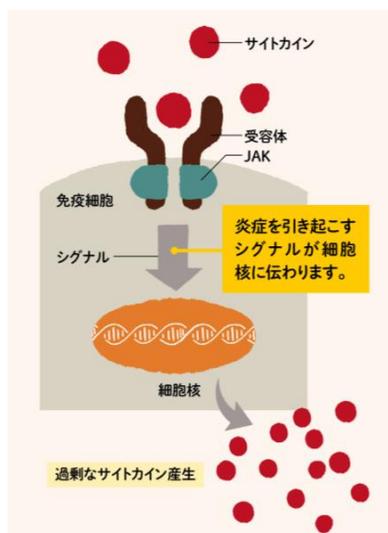
JAK阻害薬は、2013年に関節リウマチの治療薬として適応が承認されました。それから、乾癬、潰瘍性大腸炎・クローン病、アトピー性皮膚炎、新型コロナウイルスなど様々な適応を持つようになりました。その経緯から、JAK阻害薬についてまとめてみました。

○JAKとは??

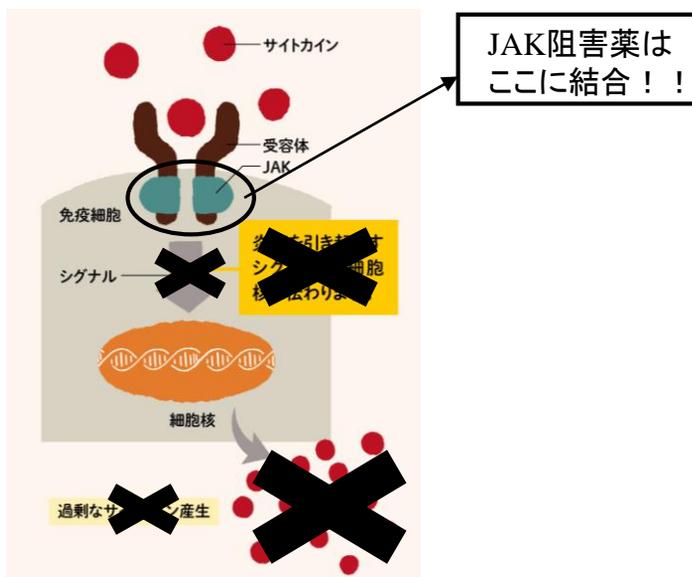
ヤヌスキナーゼ (Janus Kinase) の略語で、JAKは関節リウマチの原因となるIFNやILなどの炎症性サイトカインのシグナル伝達に関わる細胞内分子である。JAKは、JAK1、JAK2、JAK3、TYK2の4種類ある。

○JAK阻害薬の作用機序

【JAK経路の作用機序】



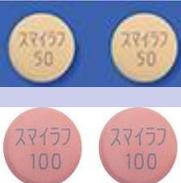
【JAK阻害薬の作用機序】



サイトカインが免疫細胞の表面にある受容体という部分に結合すると、細胞核にシグナルが送られ、炎症性サイトカインが過剰につくられる。

JAK阻害薬は、JAKに結合することによって、炎症を引き起こすシグナルが細胞核に伝わるのをブロックし、炎症性サイトカインの働きを抑える。

○JAK阻害薬一覧

製品名 (一般名)	ゼルヤンツ (トファシチニブ)	オルミエント (パリシチニブ)	スマイラフ (ベフィシチニブ)	リンヴォック (ウパダシチニブ)	ジセラカ (フィルゴチニブ)	サイバインコ (アプロシチニブ)
販売開始年	2013年	2017年	2019年	2020年	2020年	2021年
適応	・関節リウマチ ・潰瘍性大腸炎	・関節リウマチ ・アトピー性皮膚炎 ・SARS-CoV-2 ・円形脱毛症	・関節リウマチ	・関節リウマチ ・関節症性乾癬 ・アトピー性皮膚炎 ・強直性脊椎炎 ・潰瘍性大腸炎 ・体細胞性脊柱関節炎 ・クローン病	・関節リウマチ ・潰瘍性大腸炎	・アトピー性皮膚炎
作用機序	JAK1と JAK3を阻害	JAK1と JAK2を阻害	JAK1と JAK3を阻害	JAK1を阻害	JAK1を阻害	JAK1を阻害
用法	1日2回	1日1回				
臓器機能に 関する 禁忌項目	重度の 肝機能障害	重度の 腎機能障害	重度の 肝機能障害	重度の 肝機能障害	・末期腎不全 ・重度の 肝機能障害	重度の 肝機能障害
腎機能	減量	eGFR \geq 60: 4mg 30 \leq eGFR<60: 2mg eGFR<30: 投与しない	減量なし	減量なし	eGFR \geq 60: 200mg 15 \leq eGFR<60: 100mg eGFR<15: 投与しない	eGFR \geq 60 100mg or 200mg 30 \leq eGFR<60 50mg or 100mg eGFR<30: 50mg
併用注意	・CYP3A4阻害薬 ・CYP3A4誘導薬 ・グレープフルーツ ・セイヨウオトギリソウ含有食品	・プロベネシド	・肝機能障害を起 こす可能性のある 薬剤	・CYP3Aを 強く阻害する薬剤 ・CYP3Aを 強く誘導する薬剤	・なし	・CYP2C19の強い阻害薬 ・CYP2C19及び CYP2C9の強い誘導薬 ・P-gpの基質となる薬剤
剤形写真						

※赤印字は、患者限定で当院に採用があります。

※CYP3A4阻害薬・・・イトラコナゾール、クラリスロマイシン、リトナビルなど ※CYP2C19阻害薬・・・フルボキサミン、フルコナゾール、チクロピジンなど

※CYP3A4誘導薬・・・リファンピシン、カルバマゼピン、フェニトインなど ※CYP2C19及びCYP2C9誘導薬・・・リファンピシンなど

※P-gp・・・ダビガトランエテキシラート、ジゴキシンなど

JAK阻害薬は、表以外にもコレクチム軟膏(デルゴシチニブ)、ジャガビ錠(ルキソリチニブ)、リットフー口錠(リトシチニブ)があります。

JAK阻害薬開始時に相互作用や腎機能で用量調節が必要な場合は、薬剤部までお問合せ下さい。

《参考文献》

リンヴォック.jpトップ/リンヴォックを服用される患者さんへ

新薬情報オンライン

各薬剤の添付文書

(薬剤部 田中)